

心温かい人々が暮らす町

差別のない社会とは

部落差別を考える上で大事なものは「そもそも差別がないというのはどういうことなのか」という共通理解です。名前や住所、性別や性指向、国籍など、人間はひとつの属性だけではなく、複数の属性の集合体で、その多くが自分で選んだものではないはずで、しかもそれぞれの属性は本来は良いものでも悪いものでもありません。社会のいろいろな制度や法律、価値観や規範や文化と結びつくことによって、ある属性が不利に扱われたり、良くないものに思われたりしてしまいます。「差別がない状態」というのは、どの属性においても社会からちゃんと認められることではないでしょうか。

差別者によって作られる被差別者の自己認識

部落差別をはじめとする人権課題の歴史を見ると、その時々に応じて差別する側がその理由を作ってきたことがわかります。社会学者のキム・ミョンスさんの本をもとに簡略化すると、差別の表れ方には「見下し」「排除」「不可視化」という3つがあるとされています。

「見下し」とは、ある属性を理由に馬鹿にされること、「排除」は仲間はずれ、「不可視化」はいないこと・見えない状態にされることで、この反対が差別のない状態です。つまり自分が属性によって馬鹿にされず自由に活動でき、社会の一員として承認され、必要に応じた配慮を受けられることとなります。また、部落問題においては、自分の持つ属性を時と場合に応じてどう言うかを自分で決められるという点です。

戦後日本社会における部落問題と社会の推移

部落問題に関しては3つの法が関わっています。1946年の日本国憲法14条の中に、「社会的身分」という形で部落問題を意識した文言が組み込まれました。1969年に同和対策事業特別措置法（名称変更後2002年終了）が、2016年には部落差別推進法ができました。

※第14条 すべての国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。（略）
社会的身分又は門地・・・人の出生によって生じる社会的地位のこと。いわゆる「家柄」や「生れ」がこれにあたり、日本国憲法では門地による差別を明文で禁止しています。

文化面でも、島崎藤村の『破戒』が映画化、舞台化されるなどで部落差別があることを社会に大きく問うような作品も作られ、人権意識も育ってきました。しかしながらもう一方で、被差別部落にレッテルを貼るような作品や報道、全国の被差別部落を掲載して企業に売られていた『部落地名総鑑』など、法をかいくぐって差別を拡大する側とのせめぎあいも続いてきました。それらの動きはインターネットの普及で抑止が困難になっているとも言えますが、だからこそ社会として、差別をきっちり抑止することが必要で、個人としても目の前の部落問題にしっかりと向き合っていくことが必要です。そのためにも、部落差別のない状態を豊富化し、社会で共有していくことが大切ではないでしょうか。

●人権相談所開設

美波町では、法務大臣の委嘱を受けた人権擁護委員による人権相談を行っています。いじめ、嫌がらせ、インターネット上の誹謗中傷などでお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

相談場所	時間	令和5年										令和6年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日和佐隣保館	10:00~12:00		9日 (火)		11日 (火)				14日 (火)		9日 (火)			
日和佐公民館	10:00~12:00			1日 (木)			12日 (火)			5日 (火)			12日 (火)	
由岐公民館	13:00~15:00	11日 (火)		1日 (木)		8日 (火)		10日 (火)		5日 (火)		13日 (火)		

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかぞ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ No.16 News Letter

生き物の世話と治療と死

ここ数週間、カメの1匹の「卵詰まり」を治療にあたっています。成熟したカメはニワトリなどと同じで、常に卵をつくり排出する体の構造をしています。水槽などの限られた環境では、産卵場所が見つからないうちに卵巣に炎症を起こしてしまう場合があります。

カメの健康管理や治療において、最も障壁となるのが甲羅です。外敵からは身を守れますが、具合の悪さが発見しにくく、人の管理下では裏目にでてしまうのです。外科的治療も難しく、以前、手術の必要な個体がいましたが、費用が高額となり、回復する確証がなかったため、その生を全うするまで涙を吞んで見守ったこともありました。

ちなみにカメの健康状態を知るうえで、最も有効な手段は血液です。採血をして臨床検査センターに送ることで、人間同様に体のどこが悪いのか数値で判断できます。

今では論文によってウミガメであっても正常値の範囲がわかります。

ちなみに「浜太郎」も年数回の採血を行っていますが、ここ数年アミラーゼ値が異様に高いことに気が付きました。これは膵臓などに異常がある場合に出るものです。何が原因だ？食生活？熱中症？栄養剤？プールの消毒薬？論文を探したり、半年以上頭を抱えたあげく、どうも成熟したオスに同じ数値傾向にあり、繁殖に関与していることがわかりました。

このようなカメの治療や検査は他の水族館や獣医さんの協力があって初めてできます。しかし、それでも異変に気付けないことは多々あります。

動物園や水族館では、どうしても動物の体調不良や死が隣にあります。救えないこともあり、その苦しさや時間の長さは耐え難いものです。今も具合の悪いカメが頭の片隅にあり、日々の仕事をしながら、常に気がかりです。

現在、博物館はアニマルウェルフェア（動物福祉）も進めていますが、人による飼育が自然下で育つことに勝ることはないと思います。水族館は、そういうことも知ってもらう場所でもあります。

(学芸員：田中宇輝)

うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦370-4 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

カメの血は何色？

Answer

赤色です。稀に緑色と答える人がいますが、それは怪獣映画に由来しています。ちなみにウミカメの血は血小板が多く、大出血をしても、ゼリー状になってあっという間に傷をふさぎます。これは、鼻が利くサメなどから逃げるためと考えられています。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します！



ウミウシ A sea hare

カラフルな色や模様から「海の宝石」とも言われているウミウシ。巻き貝の仲間、体長は数mmほどの小さなものから30cmほどまで多様です。

幼生（赤ちゃん）期には貝殻を持っており、成長とともにほとんどのウミウシは貝殻がなくなります。しかし、他のウミウシの仲間では貝殻を持っているもの^{※1}や、体内に残っているもの^{※2}もいます。



藻類、ホヤ、カイメン、インギンチャク、クラゲ、コケムシ、ヒドロ虫などを食べますが、中にはウミウシを食べるものもいます。種類ごとに食べるものが違って、例えばカイメン食のウミウシはホヤを食べません。生息場所も様々で、潮の流れがある岩の表面、砂地、珊瑚礁、海藻の上などです。

1年中ウミウシを見ることができますが、水温が下がりエサとなる海藻が多く茂る冬は比較的浅いところにやってくるので、個体数や種類が多く確認できます。ウミウシは世界で約6000種ほどいると推測されており、日本では約1500種が確認されています。現在も新種が発見されているので、そのうち美波町の海でも新種が発見されるかもしれませんね！（ダイバー：長楽美保）